

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470201290		
法人名	有限会社コープンシャ		
事業所名	グループホーム ほのぼの平尾の家		
所在地	三重県四日市市平尾町78-12		
自己評価作成日	令和元年10月10日	評価結果市町提出日	令和2年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&amp;jivnosyoCd=2470201290-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&amp;jivnosyoCd=2470201290-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	評価認証推進機構株式会社
所在地	510-0947 三重県四日市市八王子町439-1
訪問調査日	2019年 11月 18日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の理念“ゆっくり・いっしょに・たのしく”利用者様が安全・安心・安楽に暮らして頂けるよう、職員一同が利用様に寄り添って支援させて頂いています。高齢の利用者様が多くなり、体調管理も24時間体制で主治医と連携させて頂いていることで家族様にも安心して頂いています。地域の方々との交流も、年を重ねるごとにいろいろな行事にも参加させていただき、深まっています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地の外れに位置し、隣接して町の公園があり、近隣の高齢者がゲートボールを楽しむ声が聞こえたり、春の桜や秋の紅葉などと共に住民の方々が季節ごとに植えた花が施設の窓から見られ、季節感ある風景が見て取れる。同一事業者が経営する別のグループホームとも、交流が図られ、合同会議などにより介護サービスの均一化が図られている。また、職員の待遇などでも均一化の改善が図られている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の行事(ふるさと広場)への参加や散歩時など、近隣の方々とのお話を通して、地域とのつながりを大切にさせて頂いている。	職員全員で理念にある「ゆっくり、一緒に楽しく」を実践するよう、過剰な声掛けなどで利用者の焦りを生まない様に心がけ、利用者と一緒に楽しい日常が送れるよう、職員相互に注意し合うなどで共有化が図られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事にも参加させて頂いている。近日では地域の方々が利用者様にご自宅で作られた花・野菜等を持って来て下さる等つながりが深くなってきた。	外出可能な利用者は地域の行事に参加したり、施設の行事には地域の人に手伝いをして貰っている。また、日頃地域の人々からは、季節の花や野菜を頂き、色々な場面で、利用者や地域の人々との交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事に参加させて頂いた時など、利用者様を地域の方々が介助して下さり、認知症の方々に理解を示して下さい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年六回開催している「運営推進会議」で施設報告等出席して頂く福祉、地域の方々、家族様等いろいろな方々と話し合っって意見を頂き、サービス向上につなげている。	議題には施設内でのヒヤリハットや、行った行事の内容や結果などを報告し、参加者からは地区での行事予定や参加の勧めなどが出され、それらへの対応の可否や最適な対応方法などが話し合われている。	出された意見での対応方法など実践した結果どのようになったのかや、更なる問題点など次回の会議で報告し、記録することにより、より有効なサービス改善に繋がることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員様に二か月に一度来所して頂いた時などに情報交換や近況報告等を行い、意見を頂いている。	市担当者の「ヒヤリハットを記録し、運営推進会議で報告して対応を協議しては」という意見から、報告様式を定め、出てきた案件に対し、運営推進会議で対応を検討して事故予防に役立てている実例がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については職員全員が周知しているが玄関の施錠に関しては施設が一軒家で玄関も職員や利用者様のいる所より深まっている為、不審者からの侵入で利用者様・職員の身を守る為、施錠は行っている。	身体拘束委員会を設置し協議検討して、ベット位置の変更などで身体拘束とならない介護を実践している。施設は住宅街の外れで、構造上玄関と日常職員のいる事務室、共用居間などが離れており、不審者等の外来が解らないため、危険防止での施錠はされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても職員全員が周知している。小さいことでも見過ごさないよう意識し努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	積極的に勉強会等をしたいが現在は行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様や利用者様が納得されるまで話し合い、不安や疑問点が解決できるまで説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族様とは何でも話し合えるように心がけている。 意見箱を設置し苦情などが言いやすいように努めている。苦情相談窓口があることも説明している。	ケアマネ主導で3か月毎に計画書見直しのための「サービス担当者会議」を、利用者家族全員参加の元、介護担当者、ケアマネとの3者会議を行っており、家族や利用者本人の意見を活かして介護計画や運営に役立てている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回、代表者を交えて職員全員でミーティングを行い、話し合いをして意見交換を行っている。	同一事業者の他グループホームとの職員交流を持ち、意見交換が活発に行われ、記録様式の統一化などが進められている。また、毎日の申し送り時の意見や気づきは、その後のミーティングで話し合い、都度の改善を進めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者には日ごろから職員の要望や意見を聞いてもらい、少しづつ実現して頂いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には研修をしてもらったり、勉強会に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワーク作りや勉強会等の機会を設け、サービス向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人の困っている事、不安に感じている事などの思いを受け止め、安心されるまで話し合う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時には十分な時間を取り、ご本人やご家族の不安や要望などに耳を傾け、安心して入居出来る関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の話を聞き状況を把握し、必要としている支援を見極め、他のサービスも含めて背説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の出来る事を見極め、一緒になり家族の一員として接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時にはゆっくりして頂き、利用者様と居室で過ごして頂く様努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や馴染みの深い方々の面会等もゆっくり過ごして頂く様に配慮するよう努めている。	家族とともに墓参りに行ったり、家族に協力を依頼して元の家に戻り、その近隣の人々との会話を楽しんでもらったりする機会を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士がよいかかわり方が出来る様、職員も友となり、支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて相談等の支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人と対話することで気持ちを聞き、関心のある事を深めるようにしている。	本人から聞ける場合は本人から、日常の中でそれと無く意向を聞き、意志を表せない人は、家族から聞いたり、介護担当者が日頃の介護からその様子を会議で検討して、本人本位の介護となるよう心がけられている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様より今までの生活環境等を詳しく伺って、ご本人にとってどのようなケアが適切かを職員同士で話し合い、実践に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人に合った生活のリズムを大切に、体調の変化に気を付けて楽しく過ごして頂く様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度ミーティングを行い、カンファレンスをして見直しがあれば変更し、サービス担当者会議にもご家族に出席して頂いています。	利用者、家族の意見・要望などを基にアセスメント表を作成し、毎月全職員によるミーティングでモニタリングやカンファレンスを行い、検討して利用者の状況等の情報共有により介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個人様の記録を作成して、日々変化や気づき等があった時に記録している。 職員間での情報の共有ができる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病状の急変時やご家族の対応が難しい時は、職員が受診に同行する。 日用品の購入等は柔軟なサービスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民の方々の支援を受け「ふるさと広場」等、色々な行事に参加させていただき楽しんでいる。 時々々は外食をして楽しめる様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の往診と年一回の健康診断を受けている。24時間体制で連携を取っている。急変時にも対応して頂いている。	事業所の協力医は隔週で往診による検診を全員に行い、深夜の急変時にも対応してもらえる。また、家族・本人の希望によるそれまでのかかりつけ医への受診は家族に協力依頼して、受診してもらうが、現在の状況や受診結果の連絡は密に行い、健康状態を保つ努力が為されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何かあれば情報や気づいたことを詳細に伝え、適切な対応をして頂けるようにかかりつけ医と連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医や病院・ケアワーカー・ご家族様と連携し、情報交換や相談をして関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のありかたについては、出来る場合・出来ない場合もあるので、入居時にほかの施設の申し込みも同時にして頂くよう支援している。	入所時及び介護度3以上となった場合に、家族と相談し、他の専門施設への申し込みをしてもらうなどの対応を行っている。看取りに関しては訪問看護及び事業所の協力医と協力して、これらからの指示により対応を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置の仕方・急変時の対応は医師に連絡して指示を受ける。 救急対応での訓練は定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等を行い職員全員で安全対策を確認し、消防署からの講習等に参加し、運営推進会議で近隣住民との相談等、協力体制を築いている。	スプリンクラー、火災報知器など設備は整備され、消防署の指導による夜間想定訓練や、設備業者の指導による消火訓練なども行っている。運営推進会議で地元自治会とも協力体制を築き、備蓄品も1週間分の水、食糧、おむつなどが備蓄されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	挨拶や言葉がけは必ず行っている。 聞きなれた馴染みの言葉遣いで対応している。 プライバシーに関しては細心の注意を図り接している。	利用者一人ひとりの癖や性格を把握し、職員全員で共有し、誇りを損ねない注意を払っている。声掛けは今まで近隣の人々が呼んでいた呼び方、慣れ親しんだ地元の言葉使いを心がけている。モニタリング記録など個人記録は、他者の目に触れない様、事務所管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いや訴えには耳を傾けて、出来る限り迅速に添える様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の体調をみなが支援し、意思や希望に沿って支援する事に心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの物を着て頂き、清潔にしている。 施設での訪問理容を利用して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に野菜の皮むきや盛り付けを手伝ってもらったり、食器洗い等をして頂いている。	手伝いが出来る利用者には、下ごしらえ、盛り付け、お茶入れ、台拭き、後片付けなどを職員と一緒にいき、自宅でやっていたことを思い出したり、残る能力を長く継続させる支援が行われている。	食事の補助以外にも、残っている能力を引き出し、より長く温存する為や、新たな能力を引き出すなどへの更なる工夫も期待される。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調に合わせて摂取していたいでいる。 水分は一度にたくさん飲まなくてもこまめに飲んで頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に一人ひとり洗面所で口腔ケアをして頂く。 ご自分できれいに磨けない方には支援をさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンを把握し、個々に応じて声掛けて見守りでトイレでの排泄を支援している。	排泄チェック表を使用して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、それぞれに合わせた声掛けを行い、トイレ使用を基本に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認表を記入し、医師の診断により内服液で調整したり、食事や水分にも気を付けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	全員が一人で入浴する動作がわからない方々なので、必ず介助支援が必要な為、二組に分けて一日おきに入浴して頂いている。 ご本人の体調に合わせて支援している。	全員に入浴拒否はないが、入浴そのものの理解がなくなっている。職員が介助して隔日での入浴により、入浴習慣の回復を支援している。また、時々温泉に行きたいと言う希望が出る事があるが、その時には温泉の入浴剤を使用し、雰囲気作りを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は利用者様に合わせ体調や希望によって、ゆっくりした生活を送って頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導を活用している為、医師・薬剤師様より指導して頂き服薬支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中からお好きな事・得意な事を見つけだして、一緒に行ったりして気分転換を図ってもらえる様、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日は施設前の公園などに出掛けたり、季節に合わせた行事・外出支援を行っている。	季節を感じて貰うために、行事計画を作り出来る限りの外出を支援している。日常的には、利用者の希望を聞きながら、施設前の公園や、近くの喫茶店などへ出掛けたり、施設の庭に椅子を出しておやつを食べたりなどを楽しんでいる。	近隣の方のボランティアや短時間パートなどの活用により、庭先や施設前の公園に出る時の支援や話し相手を作り、利用者が外に出てみようと思い行動を起こさせる工夫が望まれる。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様のお金は利用者様の預かり金として施設で管理し、必要に応じてその中から出させていただきます。外食支援や利用者様が購入を希望された時などに出金する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば電話や手紙の支援は行っている。 はがき・切手等は預り金で購入している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れ、花等を共用の空間に飾ったりして、四季の変化を楽しんで生活して頂く様工夫している。	共用空間は出来る限り広く、狭く感じない工夫の為、壁面の飾りや、置物などは整理され、多くしないことで、それまでの自宅の雰囲気を保つようにしている。その中で季節を感じて貰う為、利用者が折り紙で作った季節の花の壁掛けを付けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様は、ご自分たちで座る場所を決めて座られているが、時々思い思いのところでご過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者様が居心地よく過ごせるよう、ご家族が利用者様の為に工夫して下さる。	利用者家族から、それまで使っていた家具等を持ち込み配置して、自宅と同様に居心地よく過ごせる様工夫して貰っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人でも安全に歩行したりできる様、各所に手すりを設置したり、トイレ・浴室等分かり易く表示している。		